

【5-1】

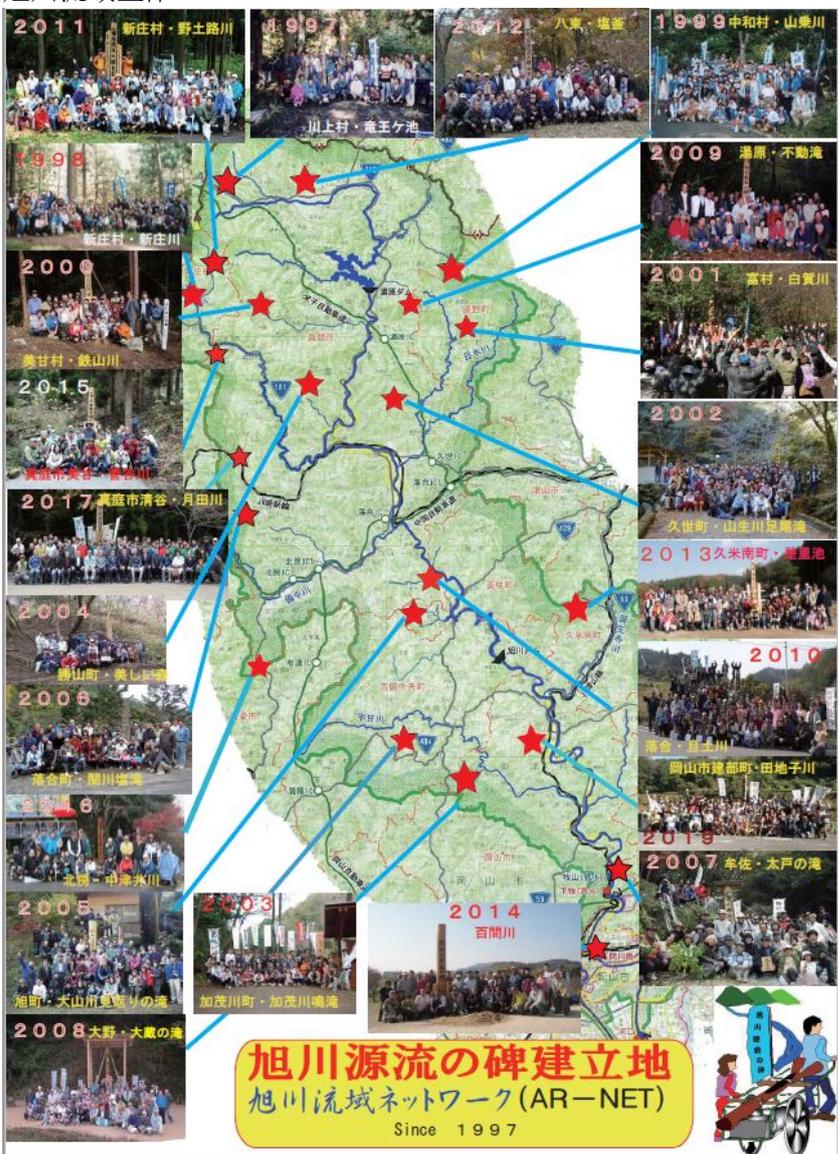
湾・灘の区分	播磨灘(岡山県 旭川流域)
取組の名称	旭川源流の碑の建立(水質の保全啓発)
事業期間及び事業費	事業期間: 1997年(平成9年)～継続中 事業費: 公益信託百間川水とみどり基金 3万円/年
事業体制	旭川流域ネットワーク(AR-NET)のメンバーで実施 ※碑の展示については、流域の市町村(公民館等)の協力
事業の背景・目的	<p>平成9年の河川法改正で河川管理の目的に「環境」が加わり、「河川の計画に地域の意見を反映」することになった。これを契機に、改正河川法の趣旨を活かすには、河川管理者と市民との協力が必要であると考え、旭川に関わっている様々な団体の方々に呼び掛け、旭川流域ネットワーク(AR-NET)が発足した。</p> <p>河川法改正の主旨をより多くの方に知って頂くことや、流域の各地域で自分達の川がどうあって欲しいのかという意見を持って頂くことを目的に、「旭川源流の碑」を建立することになった。旭川源流の碑は、地域のよりよい環境を次代へ引き継ぐ活動者である「川守」の誓いとして、流域を8ヶ月かけてリヤカーで運び建立している。</p> <p>また、流域の一斉水質調査、旭川の一部を堰きとめての魚類の調査も実施。</p>
事業場所の詳細	<p>旭川流域全体</p>  <p>旭川源流の碑 建立地 旭川流域ネットワーク(AR-NET) Since 1997</p>

図 旭川源流の碑 建立地

事業内容

旭川源流の碑は、建立地で原木を伐採するところから始まり、すべて手作りで制作する。完成した碑はリヤカーに載せて、各地域の活動拠点をリレーして運び、流域を8ヶ月かけて往復してから建立される。

「川上村の竜王ヶ池」で1本目となる源流の碑を建立後、新庄村の新庄川(H10)、中和村の山乗溪谷(H11)、美甘村の鉄山川(H12)、富村の白賀川(H13)、久世町の足尾川(H14)、加茂川町の加茂川(鳴滝)(H15)、勝山美しい森(H16)、美咲町大山川見返りの滝(H17)、真庭市(旧落合町)塩滝(H18)、岡山市牟佐の太戸の滝(H19)、岡山市御津の大野川大蔵の滝(H20)、真庭市湯原不動滝(H21)、真庭市(旧落合町)旦土川(H22)、新庄村野土路川(H23)、真庭市蒜山(旧八束村)塩釜(H24)、久米南町北庄(H25)、百間川(H26)、真庭市美甘菅谷川(H27)、真庭市(旧北房町)中津井川(H28)、真庭市(旧勝山町富原)の月田川(H29)に建立した。平成31年には、岡山市建部町の田地子川に、22本目の旭川源流の碑を建立した。



図 2019年 旭川源流の碑(田地子川)制作の様子

(続き) 事業内容

完成した旭川源流の碑は、リヤカーに載せ、流域をリレーして運ぶ。2019年にリレーした距離は536km、参加者は741名であった。



図 旭川源流の碑 リレーの様子

2019旭川源流の碑上・中流域ルート図



図 2019年「旭川源流の碑」の上・中流域における運搬ルート

(続き) 事業内容



図 2019年「旭川源流の碑」の運搬の様子

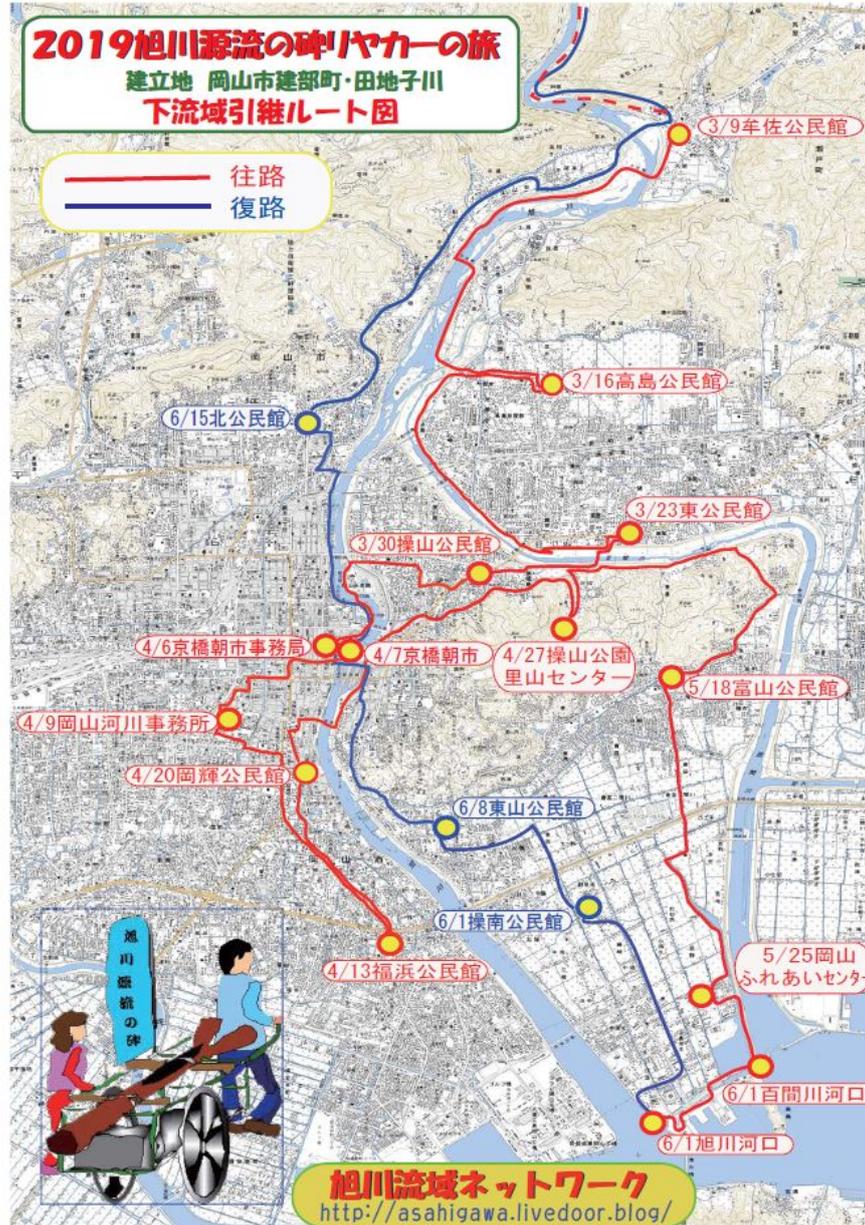


図 2019年「旭川源流の碑」の下流域における運搬ルート

<p>(続き) 事業内容</p>	 <p style="text-align: center;">図 2019年「旭川源流の碑」の運搬の様子</p>
<p>取組による効果・影響及びその判断基準等</p>	<p>民間団体が独自で、流域全体をつなぎ、情報を共有し、水や川との関わりを共同で考え、行動するのは、大変な労力と資金が必要であると実感している。</p> <p>しかし、1年に1本しか建立できない「旭川源流の碑」の行事によって、毎年、各地域をリレーして歩き、実際に会ってお話をし、懇親を深めることができるため、地域の課題を一緒になって考え、流域の皆で課題解決のために知恵を出し合い、汗を流すことができていると感じる。お金を使わず、皆さんの知恵、技、汗により、手作りで、自分の足で川や山を見ながら歩いているので、自然の変化を感じることができる。</p> <p>情報は、メールリストを使ってe-mailで配信し、その内容はスマートフォン利用者が閲覧可能な形式でブログにて公開している。</p> <p>23年間も継続して活動できているのも、日頃のこの活動があるためだと感じている。そして、この行事により、つながっている流域のネットワーク(ヒューマンネットワーク)があるため、一斉水質調査が実施できているのだと思う。</p>
<p>現状での課題</p>	<p>上、中流域の過疎化、高齢化は日に日に進行しており、地域の山や、田んぼの管理ができない状況になってきている。人の手が入った自然との共生空間が、ますます減少することにより、獣害も増加している。</p> <p>地域の存続が難しくなっており、自然災害等の発生にも影響してくるのではと考えている。</p> <p>極力、地域へ出向いて、一緒になって、川や山の管理を行うよう、交流人口を増やすことも大切だと考える。</p>
<p>今後の予定等</p>	<p>旭川流域の源流全て(140 か所)に川守が育つまで継続して実施する予定である。</p>
<p>取組事例についての発表資料等</p>	<p>上記に挿入した図等の資料</p>
<p>情報提供元</p>	<p>旭川流域ネットワーク(AR-NET)</p>